

表示チェック例

事例9.「ある成分の特定部位の健康維持効果」の表示①

【食堂入り口 料理用POP】 	■ 概要 ・設置場所: 食堂入り口 ・表示媒体: 料理用POP ・表示対象: 料理(ポテトサラダ) ・内容: ビタミンCの肌の健康作用 ■ 現在の栄養成分の表示項目 ・エネルギー、たんぱく質、脂質、食塩相当量 ・ビタミンC ■ 強調したい栄養成分の含有量 ・ビタミンC含量: 32mg
---	---

チェックポイント

評価	理由	備考
☐ Check1 エビデンスはあるか	ビタミンCは皮膚や粘膜の健康維持を助ける栄養素である。	・ガイド48頁 (資料1)
☐ Check2 表現は適切か	1)健康保持増進等の表現 「・・・肌の健康に役立ちます」 本ガイドでは、①「疾病治療または予防を目的とする効果」、②「身体の組織機能の増強、増進を主たる目的とする効果」を除く、栄養成分等の効果について表現することは問題ないと判断する。 単に「健康維持」や「美容」に重要であることを説明する場合には、①②の医薬品的な効能効果に関する表現に該当しないため、「肌の健康に役立つ」との表示は適切。 適切例(栄養素の機能に関する表現) ・亜鉛は味覚を正常に保つのに必要な栄養素です。 ・カリウムは正常な血圧を保つのに必要な栄養素です。 ・ビタミンAは皮膚や粘膜の健康維持を助ける栄養素です。 ・ビタミンCは皮膚や粘膜の健康維持を助けるとともに、抗酸化作用を持つ栄養素です。 2)表示は何を説明しているのが明確か? ビタミンCの肌の健康に及ぼす効果 3)「多い・含む」の表現は適切か? この料理のビタミンC含量(32mg)はガイド基準(「高い」: 30mg)より多く、「豊富」と表示することは適切。	☐ ・ガイド16頁 ・ガイド48頁 (資料6) ・ガイド18頁 ・ガイド48頁 (資料1) ☐ ・ガイド25頁
表示の適否	適否の理由・修正のポイント	
☐ 適切	・この料理のビタミンC含量は「高い」の基準以上であり、表示内容は、「疾病治療または予防を目的とする効果」、「身体の組織機能の増強、増進を主たる目的とする効果」にも該当しないことから、表示は適切と判断できる。	

表示チェック例

事例10.「ある成分の特定部位の健康維持効果」の表示②

【食堂入り口 料理用POP】 	■ 概要 ・ 設置場所: 食堂入り口 ・ 表示媒体: 料理用POP ・ 表示対象: 料理(手羽先の唐揚げ) ・ 内容: コラーゲンの肌の健康への健康作用 ■ 現在の栄養成分の表示項目 ・ エネルギー、たんぱく質、脂質、食塩相当量 ■ 強調したい栄養成分の含有量 (不明)
---	--

チェックポイント

評価	理由	備考
✕ Check1 エビデンスはあるか	コラーゲンは皮膚や骨・軟骨を構成する物質としてなくてはならないたんぱく質である。俗に、「美容によい」「骨・関節疾患に伴う症状の緩和によい」などと言われているが、ヒトでの有効性については信頼できるデータが十分に見当たらない。	・ ガイド48頁 (資料5)
✕ Check2 表現は適切か	1)健康保持増進等の表現 「美肌に効果的」 「美肌に効果的」は、「身体の組織機能の増強、増進を主たる目的とする効果」の表現にあたる。これは、医薬品的な効能効果の表示に該当するため、表示は適切ではない。 2)表示は何を説明しているのか明確か？ コラーゲンの肌の健康維持効果 ※何を説明しているかは明確だが、エビデンスが不明確で、健康保持増進の表現が不適切であることから、表示することは適切ではない。 3)「多い・含む」の表現は適切か？ (非該当)	✕ ・ ガイド16頁 ・ ガイド48頁 (資料6) △ -
表示の適否	適否の理由・修正のポイント	
✕ 不適切	コラーゲンの肌の健康へのエビデンスは明らかではないため、この内容を表示することは適切ではない。	

事例11.「ある成分の健康維持効果」の表示

コールスローサラダ

ビタミンたっぷり。
ビタミンは美容に役立つ
栄養素です。

●kcal ●g ●g ●g ●mg

- 現在の栄養成分の表示項目
- ・ エネルギー、たんぱく質、脂質、食塩相当量、ビタミンC
- 強調したい栄養成分の含有量
- ・ ビタミンC含量: 42mg

評価	理由	備考
Check1 エビデンスはあるか	ビタミンCはコラーゲン合成を介した正常な毛細血管の維持や抗酸化作用に必要な水溶性ビタミンの1つである。一般に「コラーゲンの合成を促進する」「抗酸化作用がある」「鉄や銅の吸収を助ける」「メラニン色素の生成を抑制する」「免疫力を高める」などと言われており、ヒトの有効性については、ビタミンC欠乏の予防と治療に対して有効性が示されている。	・ガイド48頁（資料3）
Check2 表現は適切か	1)健康保持増進等の表現 「…美容に役立つ栄養素です」 本ガイドでは、①「疾病治療または予防を目的とする効果」、②「身体の組織機能の増強、増進を主たる目的とする効果」を除く、栄養成分等の効果について表現することは問題ないと判断する。 単に「健康維持」や「美容」に重要であることを説明する場合には、①②の医薬品的な効能効果に関する表現に該当しない。「美容に役立つ」との表現は適切。 適切例(医薬品的な効能効果に該当しない表現) 「健康維持」、「美容」に関する表現 ・〇〇(成分)は、美容に役立つ成分です。 ・健康維持、美容のためにお召し上がりください。 2)表示は何を説明しているのか明確か？ ビタミンCの健康維持効果 3)「多い・含む」の表現は適切か？ この料理のビタミンC含量(42mg)はガイドの「高い」基準を上回っており、「たっぷり」と表現するのは適切。	・ガイド48頁（資料9） ・ガイド25頁
表示の適否	適否の理由・修正のポイント	
適切	エビデンス、表現ともに問題なく、表示は適切。	

表示チェック例

事例12.「名称・呼称」の表示①

【食堂入り口 料理用POP】 	■ 概要 ・ 設置場所: 食堂入り口 ・ 表示媒体: 料理用POP ・ 表示対象: 料理(豚肉の生姜焼き) ・ 内容: ビタミンB群の代謝促進効果 ■ 現在の栄養成分の表示項目 ・ エネルギー、たんぱく質、脂質、食塩相当量 ■ 強調したい栄養成分の含有量 ・ ビタミンB₁ 0.61mg
---	--

チェックポイント

評価	理由	備考
✖ Check1 エビデンスはあるか	ビタミンB ₁ は、炭水化物からのエネルギー産生、ビタミンB ₆ は、たんぱく質からのエネルギー産生に不可欠な栄養素である。これらの働きを踏まえ「代謝促進効果」と表現したものと考えられる。しかし、「ビタミンB群」は、多くの種類があるため、どの栄養素の働きかを明確にする必要がある。	ガイド48頁 (資料1, 3)
✖ Check2 表現は適切か	1)健康保持増進等の表現 「・・・には、代謝促進効果がある・・・」 「代謝促進効果がある」は、「身体 の組織機能の一般的増強、増進効果を主たる目的とする効果」の表現にあたる。これは、医薬品的な効能効果の表示に該当するため、表示は適切ではない。 他の不適切事例 ・ 疲労回復 ・ 体力増強 ・ 食欲増進 ・ 老化防止 ・ 免疫機能向上 ・ 免疫力アップ 2)表示は何を説明しているのか明確か？ ビタミンB群の作用 ただし、ビタミンB群のどの栄養素の作用が特定できない。 3)「多い・含む」の表現は適切か？ ・食品表示基準では、「ビタミンB群」が豊富とする場合、ナイアシン、パントテン酸、ピオチン、ビタミンB₁、ビタミンB₂、ビタミンB₆、ビタミンB₁₂、葉酸の全てが基準を満たしている必要がある。 ・ビタミンB₁に限定して考えると、この料理のビタミンB₁含量は、本ガイドの「高い」基準(0.40mg)を上回っていることから、「豊富」と表示するのは適切。	✖ ・ ガイド16頁 ・ ガイド48頁 (資料6, 7, 8) △ ✖ ・ ガイド25頁 ・ ガイド48頁 (資料7)
表示の適否	適否の理由・修正のポイント	
✖ 不適切	・エビデンス、表現に問題があるため表示は適切ではない。 ・ビタミンB群のうち、どの栄養素の働きなのか示す。 【修正例】 ・豚肉の生姜焼きには、ビタミンB₁が豊富に含まれます。 ・ビタミンB₁は、糖質がエネルギーに変わるのをサポートします。	